

サマリー

英国天然ガス需給バランスの見通し

財団法人 日本エネルギー経済研究所

戦略産業ユニット

小山 堅

森川 哲男

上村 伸二郎

秋本 真誠

英国の天然ガス生産は2000年をピークに減少を続けており、2004年には純輸入国に転じた。一方、過去10年間において、天然ガス需要は年率4%の伸び率で増加しており、今後は天然ガス輸入への依存度が高まることを見込まれている。

英国向け天然ガス輸入プロジェクトは、パイプラインガス・LNGとも多数が計画されている。公称値が発表されているものだけでも、新規プロジェクトのキャパシティ合計は年間約100Bcm（7,300万トン）に達する。これは、英国政府が2020年に想定している需要量と同一であり、国内生産、既存輸入プロジェクトの存在を考慮すれば、全ての新規プロジェクトが実現する可能性は低いと言える。このように、キャパシティベースでは大幅に供給過剰だが、実際のガスフローはどうなるのだろうか？また、英国向け供給が想定されていたLNGが日本に来る可能性はあるのだろうか？本レポートはこれらの点を把握することを目的とした。

お問合せ：report@tky.ieej.or.jp